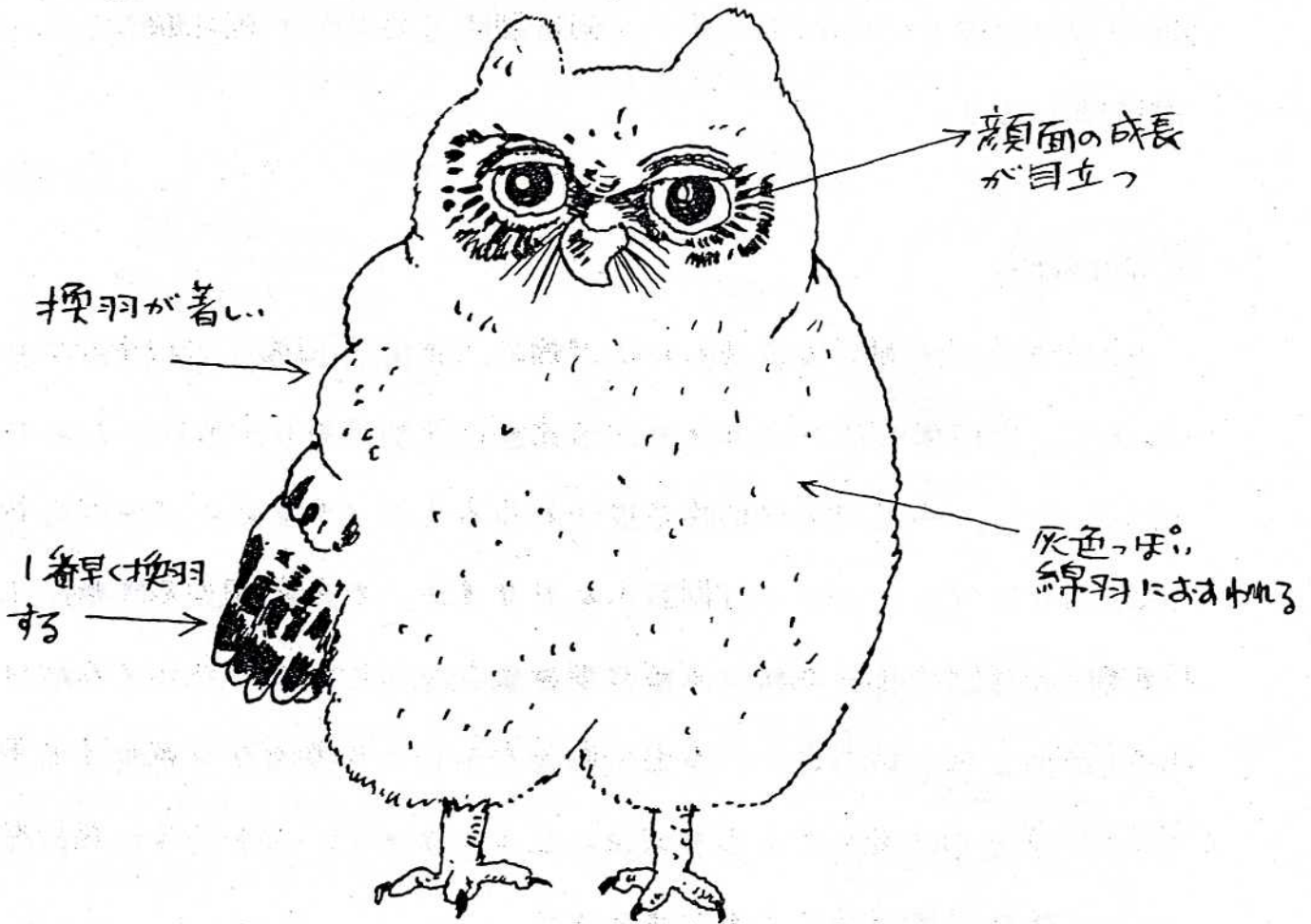


旭山動物園ニュース

# モエウ・カレイ



オオコノハズク  
(孵化後40日目)

# 3

1981.12  
ASAHIYAMA ZOO

# 動物学入門

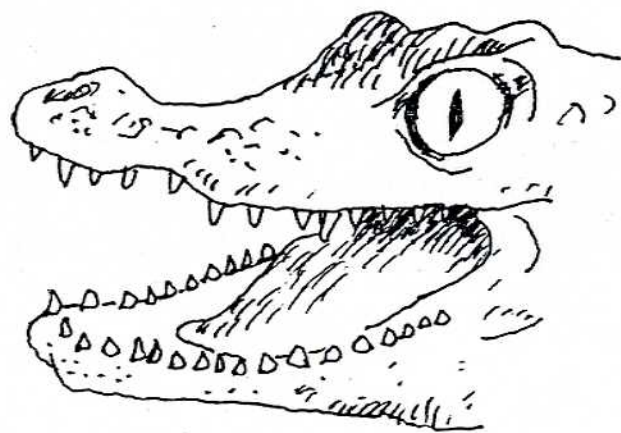
## その3 歯について (I)

歯とは、動物の口にあつて、食物をかみくだく役目をするものです。

脊椎動物にみられる歯は、口腔粘膜に由来するもので、サメの仲間のもつ楯鱗がこの起源といわれています。今回は陸上で生活する哺乳類について調べてゆきましょう。

### 歯の種類

陸上で生活する哺乳類の歯には、門歯、犬歯、小白歯、大白歯の分化がみられます。大白歯のほかは、乳歯と永久歯の区別があり、抜けかわるのが普通です。しかし、一生の間に何回も抜けかわるもの(ゾウ)や、まったく抜けかわらないもの(カンガルーの仲間)もあります。これらの歯の数や形、大きさは哺乳類の分類や化石の判定の重要な要素となつています。ネズミなどは、歯の成長が止まらないので、いつも堅い物をかじつて先端をすり減らす必要がありますが、多くは一定のところで成長が止まります。したがつて、歯の磨滅具合から、年齢を推定することもできます。



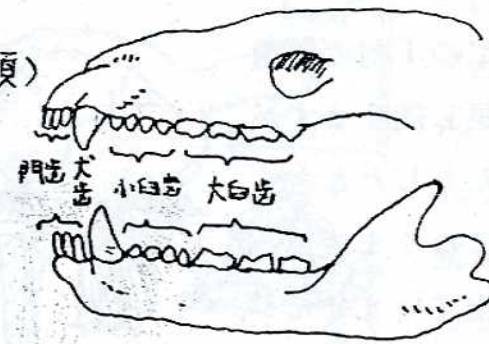
### 歯式

歯式とは、歯の構成を式で表わすものです。左の横顔を見て、歯の数を記録するので、左から、門歯、犬歯、小白歯、大白歯の順になります。

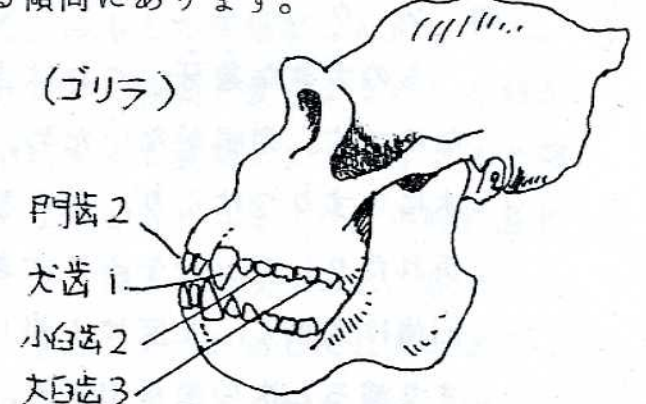
分子は上あご、分母は下あごになります。私たちヒトの場合は  $\frac{2}{2} \frac{1}{1} \frac{2}{2} \frac{3}{3}$  です。これは片側の数ですから、歯の数はこの2倍になります。

化石から推定される原始哺乳類の歯式は  $\frac{3}{3} \frac{1}{1} \frac{4}{4} \frac{3}{3}$  で、これを基式とよんでいます。進化が進むほど、歯の数は減る傾向にあります。

(原始哺乳類)



(ゴリラ)



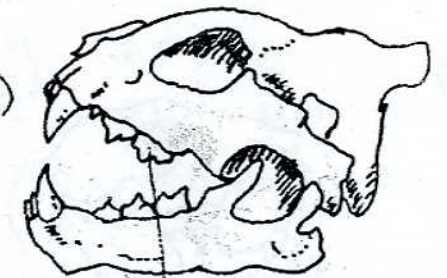
代表的動物の歯

### (I) 肉食獣

特徴は何といても、獲物をとるのに発達した牙とよばれる強大な犬歯です。それと肉を切り裂く働きをする裂肉歯とよばれるもので、上あごの最後の小白歯と、下あごの一番前的大白歯が大きく発達しています。

ライオン、トラなどネコ科の歯式は  $\frac{3}{3} \frac{1}{1} \frac{3}{3} \frac{1}{1}$  で、オオカミ、キツネなどイヌ科の歯式は  $\frac{3}{3} \frac{1}{1} \frac{4}{4} \frac{2}{3}$  です。

(ネコ)



裂肉歯

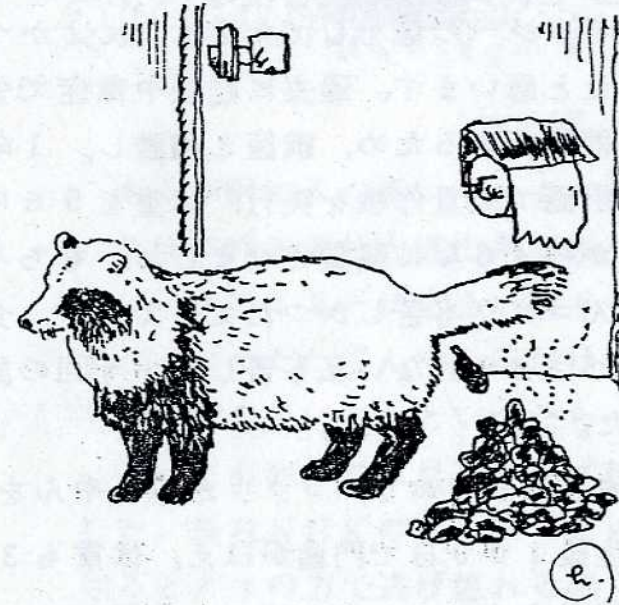
(キツネ)



# 北海道の動物たち

## その3 エゾタヌキ

*Nyctereutes Procyonoides albus*



エゾタヌキはアイヌ語でモユク・カムイと言われ、人間の生活に近い存在としてよく知られて来ました。生活の場所が山の中ではなく、ふもとの平地だったからです。ずんぐりとした体型と愛きようのある顔から、昔話にもよく登場します。「タヌキ寝入り」をされると言われますが、実際に急に驚かせたり、捕まえたりすると、急におとなしくなり、グターツとしてしまいます。それで力をゆるめると、サツと逃げ出すのです。敏しようでないタヌキの身を守る唯一の方法かも知れません。もう一つおもしろい習性を持っています。巣穴から少し離れた場所に便所があり、ウンコを山のように積んであります。

巣穴は、清潔ですし、敵にも発見されづらいのでしょう。同じイヌ科の仲間のキツネやオオカミとは少し違つた古い時代の動物なのです。世界では、日本と東アジアにだけ住んでいます。

最近、本州でホンダタヌキが増え過ぎて困るといつたニュースが聞かれますが、実際神社の裏山だとか、小さな森なんかによく生活しています。反対に北海道ではエゾタヌキが減つて来ているようです。

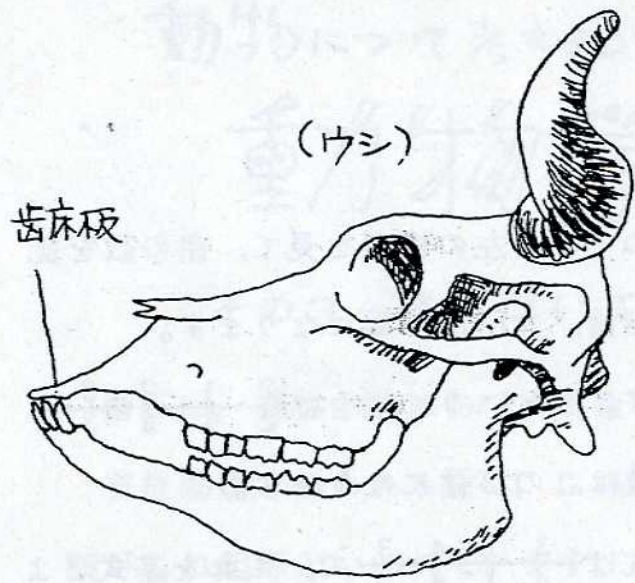
生活範囲の広い、生活力のあるキタキツネとの競争に負けつつあり、一方で彼等の生活場所である低い山のふもとを人間が占領してしまつている。というのが主な原因として考えられます。

皆さん、一度考えてみてください。どうしたら、人間とエゾタヌキなど野生の動物たちが、一諸に生活してゆけるのでしょうか。

皆さん、一度考えてみてください。どうしたら、人間とエゾタヌキなど野生の動物たちが、一諸に生活してゆけるのでしょうか。

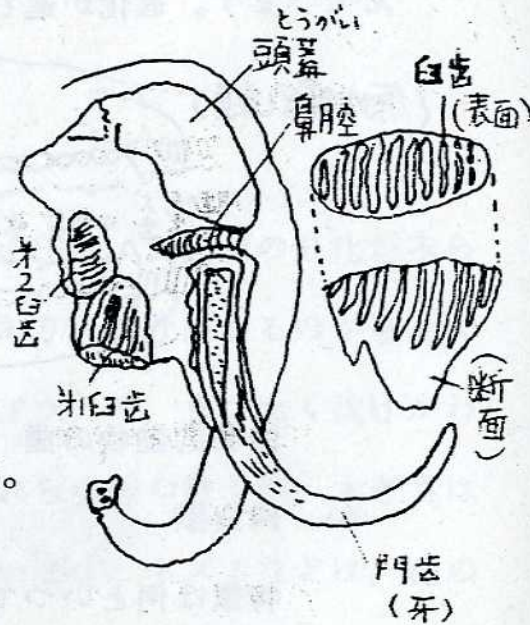
## (2) 有蹄草食獣

主食である草の植物繊維をすりつぶすため、小臼歯、大臼歯が発達し、反対に犬歯が退化しています。トナカイ、カモシカなどウシ科の歯式は  $\frac{0}{3} \frac{0}{1} \frac{3}{3} \frac{3}{3}$  で、上あごに門歯がなく、歯肉が硬くなつた歯床板となつています。

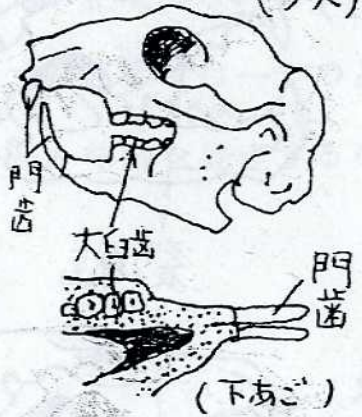


## (3) ゾウ

あの大きな象牙、これは上あごの1対の門歯なのです。歯根がないため、成長し続けますが木にこすりついたり、根を掘つたりしたときに折れたりして、むやみに大きくはなりません。臼歯は大きく、1度に1対しか出ていませんが、すり減ると次の歯が出てき、一生の間に5回の抜けかわりがあります。歯式は  $\frac{1}{1} \frac{0}{0} \frac{3}{3} \frac{3}{3}$  です。



## (リス)



## (4) ネズミの仲間

上下あごの1対の門歯が大きく発達し、一生のび続けます。犬歯や小臼歯は退化し、口の奥に3対の大臼歯があります。歯式は  $\frac{1}{1} \frac{0}{0} \frac{0}{0} \frac{3}{3}$  です。

## (5) ウサギの仲間

ネズミと非常によく似ていますが、上あご門歯が2対あり、それが前後に重なりあつて並んでおり、分類学上のウサギ目の特徴となっています。歯式は  $\frac{2}{1} \frac{0}{0} \frac{3}{3} \frac{3}{3}$  です。

歯は、その動物の食物と最も深い関係にあり、生活に密着した器官です。野性動物に虫歯はきわめて少ないと言われてています。皆さんも歯を大切にしてください。

飼育日記より



ゴクウの出産  
チンパンジーの夫婦，ゴクウ(妻18才)キーボ(夫13才)の間に今年8月18日雌の赤ちやんが誕生しました。ゴクウは妊娠しても流産しやすく，今回無事出産させることができ，13年間チンパンジーの係をしてきて本当によかったと思います。過去に妊娠中毒症で失敗しているため，獣医と相談し，1年計画で減量作戦を実行，体重を56kgから46kgに減量させました。もちろんゴクウも苦しかつたでしょうが，食べさせられない私も苦しく，今回の誕生の喜びが，一層大きなものとなりました。

現在の暖房のある部屋で母子とも元気にすごしており，ゴクウが赤ちやんを大切に育てているのを見守るだけです。生後100日で門歯がはえ，体重も3kgほどになりました。来春の開園には，可愛ゆくなつた姿を皆さんに観ていただけたと思います。名前はまだ決めていません。可愛い名前を考えてください。

----- ◆◆◆ ----- ◆◆◆ ----- ◆◆◆ ----- ◆◆◆ -----



太り過ぎ  
妊婦さんが，医者から，太り過ぎると妊娠中毒になるから気をつけなさいと言われます。人間の雌は食べて太れば良いと思つとる，動物は自分で考えて

食事をするワイ，と思つていた所，チンパンジーの症状が妊娠中毒症そのものだったのです。低カロリー療法を試み，ようやく繁殖に成功しましたが，やはり動物園で生活する野生動物も，太り過ぎには充分注意をして，食事に気を配つてやらないといけないようです。

(しかし，太り過ぎの飼育係はどうすればいいのだろう。) 痛ッ



高原沼のヒグマ

もう冬眠に入っているヒグマとの出会いを思い出しています。

それは昨年8月大雪山系高根ヶ原から高原温泉へ下山の途中，高原沼で話題のK子ファミリーに会い我々一行5人は恐怖で足がすくみ，しばらくはなすすべもなくたたずんでいるだけでした。その時間はものの5分ほどでしたが，その時間の長いことといつたら……。

幸いにも我々には目もくれず稜線方向へと探餌のため移動して事なきを得ました。後日NHKのテレビでこのK子ファミリーが放映され，登山者の接近を知るとクマの方で逃げ隠れる様子がはつきり映し出されました。我々の場合は幸運だったのか不運だったのかと考えています。

また，今年の秋には同じ高原沼で人を追いかけるクマが出て，紅葉の名所高原沼が立入禁止にされました。広い縄張りを持つクマが狭い高原沼に共存しているのかどうかはわかりませんが，一方では人を見ると逃げ，もう一方では人を見ると追いかける。この二つを人間の側から見ると，良いクマと悪いクマとに分けられそうです。良いクマはそのままそこにいてもいいけれど，悪いクマは早めに駆除すべきだという理論が成り立ち，そのうちライフルの餌食になってしまうのでしょうか。

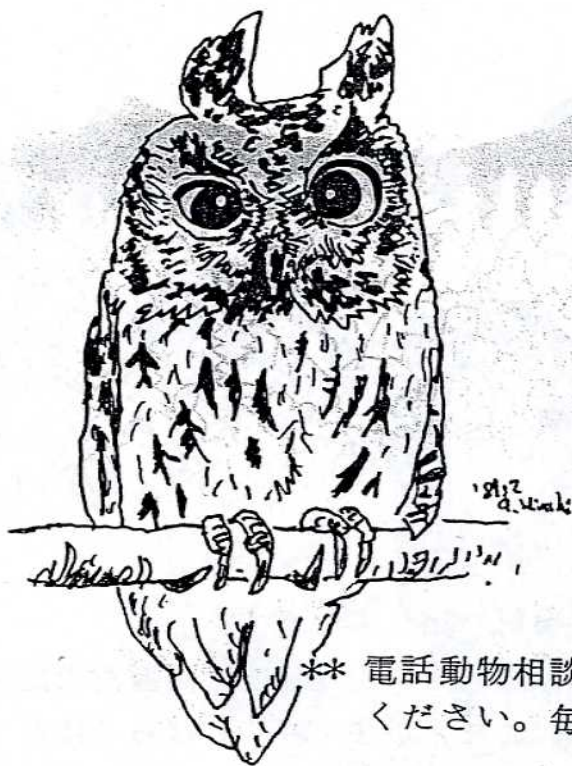
もともとクマの縄張りだったところに人間が入り込んでしまった悲劇がここにあります。

冬眠あけのヒグマに待つている運命は何なのでしょう。少々心配です。



環境庁大雪山国立公園勇駒別  
管理員事務所

佐々木 仁



### 表紙のことば

今年、オオコノハズクのヒナを4羽育てた。名前をそれぞれ「ミカン」、「イチゴ」、「トマト」、「エンドマメ」とつけた。「ミカン」だけが順調に育ち成鳥になった。来年もまたヒナがたくさん産まれるだろう。さてどんな名前にしようかな。

\*\* 電話動物相談を始めます。動物のことなら何でも聞いてください。毎日13:30~14:00の間

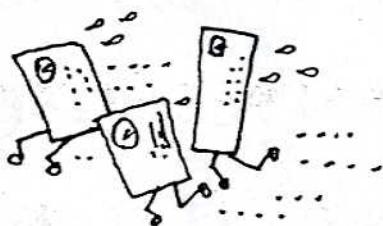
TEL 36-1104 動物相談係まで

### 編集後記

今年は始めからドカ雪で、いつぺんに冬を迎えました。ホツキョクグマやトナカイには、待ち望んだ季節です。南方系の小さな動物たちは春まで暖房のある部屋ですごしますが、ゾウやカバ、キリンたちは雪の降る日も毎日外へ出て元気に運動します。皆さんも外へ出て活動しないと、太り過ぎになりますよ。注意しましょう。

今号には、大雪山国立公園のレンジャー氏から、記事を載せました。実際に現場で野生を守っている方の意見です。有難うございました。

皆様も、その他何でもよろしいですから投稿してください。



モユク・カムイ No3

昭和56年12月20日

発行所 旭川市旭山動物園 〒078-11 旭川市東旭川町倉沼

TEL 36-1104

編集人 小原源隆

編集委員 小菅正夫 阿部 寛